ブラックぴいすけ、ブラジャーを盗まれるの巻！

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ブラックぴいすけ、ブラジャーを盗まれるの巻！

【Ｎコード】

Ｎ９１４７Ｈ

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

ブラックぴいすけの大事なブラックブラジャーを毎日盗むけしからんヤツがいる！！！

（前書き）

ちびっこはもう寝なさい！

ブラックぴいすけは本当に困っていた。お気に入りのブラックのブラジャーを干しておくと毎回盗まれてしまうのだ。
「あうー。やだなー。なんであたしのばっかー」
ブラックぴいすけは悲しくて悲しくてヨーグルトをやけ食いする。
「ようし。こうなったら」
てなわけで、ブラックぴいすけは犯人を捕まえることにした。
ブラックぴいすけは夜ブラジャーを干しすぐ寝てしまうので朝見ると盗まれておるのだ。今夜は寝ないぞと決心した。
しかし、ブラックぴいすけはブラックコーヒーを飲んだり、ブラックブラックを噛んだりしてたが、夜の１２時くらいになるとうとうとしてしまう。
「あ。あかん。ねむい」
ブラックぴいすけはもうブラジャーなんてどうでもいいやと思い、ベッドに倒れたその瞬間。
ばりーーーーーーん。
窓ガラスが割れた。
「だ、誰」
血まみれのおっさんがふらついていた。
「もう我慢できないんだ。今まではぴいちゃんのブラジャーをかぶって遊んでたらストレス解消できたけどもうたまらん！ぴいちゃん、おっぱいなめさせてくれ！」
「えええええ。そんなこと言われたって。あなたのこと知らないし」
「ライスだよ。ごはんライスだよ！」
「えええええ。ライスせんせぇ？？？」
ブラックぴいちゃんは目を白黒させた。た、確かに。間違いない。
メタボリックだもん。
ライスはズボンを脱ぎ始めた。

「ちょちょっと。ライス先生！何してんの！」
「ふがふが。ちん（ぴーーーっ）ちんが苦しい。何とかしてよ！」
「えええええ」
とその時。
ずがあああああああん。
ドアで爆発音。
どたどたどた。
誰か女の人が走ってきた。土足だ。
「うっうさちゃん」
ライスは震え上がって、ちん（ぴー！）ぼが縮んだ。
「ま、まさか。うさぎや先生」
「ぴいちゃん、ごめんね。ライス先生を懲らしめるから」
うさぎやは持っていたバットでライスの尻を叩いた。
「あうん！」
なんか嬉しそう。
「もっと。もっと！」
何回も何回も叩いた。
「あうん！あうん！」
「うははは。これは気持ちがいい。おらライス。このくそでぶ」
うさぎやの目がイッてる。
ブラックぴいちゃんは恐ろしくて口が聞けない。
「ああ。これは夢なんだわ。夢に違いない」
ベッドに横になり眠った。
「夢よ夢。気にするこたぁないわ。ぐーぐー」
「あふん！いやはん！」
「うははははは」

朝目が覚めた。
「げ」
「あ。ぴいちゃん、おはよう」

ブラックぴいすけの隣に見知らぬ男性が寝ていた。
「あ、あんた。いったい誰なの」
「ボク？」
おっさんは、咳払いをして答えた。
「（ぴーーーーっ）すけだよ。窓ガラス割って入ったんだ」
「ええっマジ？」
ブラックぴいすけは戸惑った。じゃ、じゃあ半分は夢じゃないんだ。
でも変ね。別にガラス割れてないし。
ママが起こしに来た。
「ブラぴい。ごはんよ」
「あっ。（ぴーーーーっ）すけ、隠れて！」
「は？」
ママが怪訝な表情をする。
「早く！隠れて！隠れて！蒲団の中に隠れなさい！（ぴーーーーっ）すけ！」
ママは怖くなってきた。
「ブラぴい。あんた。何一人で騒いでるの？」
「え」
（ぴーーーーっ）すけが、くっくっくと笑う。
「オレはもう一人のお前なのさ。ママに見えるわけがねえ」
「なにそれーーーー！！！」
ま、まさか。いわゆる二重人格というやつか！
「あんた。もうやめてよ。冗談はやめてよ。（ぴーーーーっ）すけのバカ！」
「冗談なものか。おいババア！見せもんじゃねえ。出てけ！」
「ええええええええ」
ママはあたふたしてしまった。なにしろ、ブラックぴいすけは優しい子。ママのことをババアなんて呼んだことない。
「おいコラ。ババア。出てかんと犯すぞコラ」
ブラックぴいすけは、すっかり（ぴーーーーっ）すけに体を乗っ取

られてしまった。
「あ、あんた。親にそんな口聞いていいの」
「ふん。うるせえ。もうむかついた。犯す」
ブラックぴいすけ、いや、（ぴーーーーっ）すけは、ママのエプロンをめくり、スカートを脱がせ、ブラックパンツを脱がせた。
「い、いやん！」
両手で顔を隠すママ。
「ぐっふっふふ。いい眺めだぜ。今、ちOんOぼ入れてやっから待ってな」
（ぴーーーーっ）すけは、パジャマのズボンを脱いだ。
ママはなぜか期待に胸が高鳴ってる。なにしろ、最近、夫とごぶさただ。
「ようし。ひいひい言わせてやる。あれえええええ」
（ぴーーーーっ）すけはあわてふためいた。
「ち、ち、ちんこがねえええええええええええ」
当たり前だ。体はブラックぴいすけなんだから。
「そ、そんなァ」
ママはキレた。
「なによ！期待はずれね！」
「そ、そんなこと言ったて」
「この火照った体どうしてくれるの！責任とってちょうだい！」
「責任とれって言われても。う！」
（ぴーーーーっ）すけは頭がガンガンしてきた。
「うおおおおおおおおおおおお」
倒れた。
「ううん」
起き上がった。
「あれ。ママ。どうしたの。パンツ脱いでるやん。うはっ。あたしも脱いでる！」
ブラックぴいすけに戻ったようだ。

ママはあわててスカートをはいた。
「ブ、ブラぴい。朝ごはんよ。早く食卓に来なさい」
「はァい」
ブラックぴいすけは、パジャマを脱いだ。
「ぐふふふふ。いい体してやがんな。たまんねえ」
あ。また（ぴーーーーっ）すけが。
「もう！あんたは出てこないでいいの！」
「そういうわけにもいかねえ。こんないいボインを見てしまえばな。おりゃ」
（ぴーーーーっ）すけが、ブラックぴいすけの胸をもみ始めた。
ただ、同一人物なので、自分で自分の胸をもんでるだけである。
「ああん。気持ちいい」
「おりゃ！おりゃ！どや！どや！」
「ああん。ステキィ」

早く着替えないと遅刻するよ。ブラックぴいすけ！！！

（後書き）

実在のブラックぴいすけとは何の関係もございません。マジで。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9147h/

ブラックぴいすけ、ブラジャーを盗まれるの巻！

2010年12月4日14時51分発行